

令和7年度 第2回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和7年（2025年）12月18日（木） 19時05分～20時32分

会 場：豊中市立中央公民館 1階 集会場

出席者：秋山 京子、大里 ルミ子、大濱 浩子、奥村 旅人、十河 秀敏、野村 恭代、
松山 繁樹、渡邊 浩

欠席者：津田 克裕、松山 鮎子

事務局：本田 光直（中央公民館長）、山岸 明子（螢池公民館長）、橋本 慶（庄内公民館
長）、江川 勉（千里公民館長）、前田 真吾（中央公民館副館長）、守屋 浩一（中
央公民館）

傍聴者：なし

案件：

- ① 公民分館の解散と設置について
- ② 令和7年度公民館講座等の実施報告について
- ③ 令和7年度公民館講座等の実施報告について
- ④ 豊中市教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
（令和6年度実施分）について
- ⑤その他

資料：

○次第

○庄内よつば公民分館の設置と庄内南公民分館、庄内西公民分館、千成公民分館の解散につ
いて（諮問）

- 資料1 庄内よつば学園校区における新設公民分館設立要望書（写し）
- 資料2 よつば公民分館設立の経緯
- 資料3 庄内よつば学園公民分館設立準備委員会名簿
- 資料4 新分館位置図
- 資料5 庄内よつば公民分館規約
- 資料6 庄内南、庄内西、千成の3公民分館からの解散要望書（写し）
- 資料7 公民館条例、施行規則（抜粋）
- 資料8 令和7年度 事業評価（公民館・連携課事業【4月～9月分】）
- 資料9 講座・事業報告書
- 資料10 令和7年度 公民館まつり実施報告
- 資料11 令和7年度 公民分館講座実施報告
- 資料12 令和7年度 公民分館行事实施状況

○資料 13 豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価報告書 令和 6 年度実施分より一抜粋

1. 開会

2. 案件

(1) 公民分館の解散と設置について

<事務局より諮問書及び資料 1 から資料 6 の説明>

●学校設立時に十分議論されていると思うのだが、分館は地域に密着しているので合併すると広域になってしまう。各分館から要望書も出ているからその点どう言うつもりはないのだが、先行事例のさくら公民分館では小さなエリアから大きくなることについての問題は発生しなかったのか。課題があれば、よつばを設立するうえでそこを解決することは考えているのか。

■旧小学校区単位でそれぞれコミュニティがあっけいきなり大きなものになると文化も違う。さくらで言えば、もともと野田に旧校区単位である地域自治協議会があり、それに合わせ旧の島田と庄内も同時に地域自治組織を立ち上げたという経緯がある。今まで旧単位でやってきたことは自治組織でやって、学校と地域や他の団体とのハブになることをさくら公民分館がやっている。1 年遅れたのは、学校と地域を繋ぐ公民分館としての大きな単位が無かったので、学校と地域を繋ぐさくら応援団という任意団体を立ち上げてそこが地域と学校を繋ぎつつ分館とも繋がっている。よつばに関しては学校との連携の応援団の要素も分館に取り組みせるように考えている。さくらがあっけ1 年ずれたということでの弊害をあわせ、学校との連携については新たな公民分館に持たせるという形で進めている。

●合併したら公民分館の予算はどうなるのか。予算の根拠は。

■3 分館集まるから 3 倍というわけではなく、他の分館の算出方法と同様に人口を基礎とした計算式により算出される。統合してもプラスアルファはない。さくらもそれでやっている。

●体育祭や文化祭などはまとまって 1 回ずつになるのか。さくらの場合はどうか。

■さくらは体育祭はやっていない。広域すぎてまとまれない。地域でやっていたまつりという形で行事をしている。よつばについては今後検討していく。やるなら地区対抗とか考えている。

●今まで分館の育成グループが学校開放委員会で場所を借りたりしていたのは、ひとつになったらどうなるのか。

■さくらの場合、さくら学園があり、元々あった学校が廃校になった学校は段階的に閉じていっているが、まだ使える状態であり現状はさくらの学校開放委員会が他の学校利用の調整もしている。なんとか回していけている。

●今までも育成グループ間で取り合いになっているのだが、1つの学校に3つの小学校の団体が押し寄せるようになったら調整できるのか。

■今は島田、野田小学校が使っているが、段階的に使えなくなってくるので、団体としては一緒にやっていってもらうようにも言っていて、少年野球チームは一つにまとめていたりしてうまくやってきているところもあるが、また新たによつばも減ってくるので、新たな広場を作るといふこともあるのだが、今は何とか回っている状況である。

◇それでは、よつば公民分館の令和8年4月1日付の設置と、庄内南・庄内西・千成の現在の3分館の令和8年3月31日付での解散について、公民館運営審議会として適当と認めます。

(2) 令和7年度公民館講座等の実施報告について

<事務局より資料8、資料9の説明>

●登録グループが減る原因として、地域団体の活動だがいったんグループが出来てしまうとなかなか途中から入りづらいというところがある。アンケートを取ったりして当事者の悩みや方法を聞いたりしていますか。

■登録グループ体験講習会において、参加者の反応や状況など講習会についての報告書を出してもらっている。体験講習会がきっかけでグループに入ってくれることもある。工夫している部分は、広報の周知については広報誌以外に、X（エックス）やSNSも活用している。

●10人切ったグループの加入活動だが、新たな参入は障壁が高い。講座の後に共通の繋がりとして参加者の中でサークルが出来たりするのが理想だと思うが。例えば韓国語講座の後に韓国語翻訳などのサークルが出来たりしないか。登録グループの減少に歯止めをかけるのはそういった方向性かと思うのだが。また、そうなった後にハンゲル語の書籍を販売する手段を講じることは社会教育法には抵触しないと思われる。その場で販売するのではなく、読書

会となったあとで斡旋すること自体はおそらく問題が無いと思う。

■書店側も、本離れの状況なので、講座に合わせて書籍を用意するというのはニーズもあり、うまく実施できれば良いと考える。

●登録グループ体験講習会についての周知について、公民館側からは様々な手法を凝らしていただいたが、グループ側でももっと努力するよう要望されている。ポスターを貼ったりチラシを作ったりと。それ以外にもグループメンバーが声掛けしたりすることも大事だと言われている。体験講習会を実施した登録グループが取られた開催周知の手法を取りまとめられて、実施グループに示して人集めを行うよう呼び掛けていただきたいと思う。

●夏休みだったこともあり、活発に色々企画して参加者も定員に達していて数字的にも良くなってきていると思う。3ページの蛍池の講座だが、参加費 500 円は何か。

■資料代として、資料を用意した共催の NPO 団体に渡している。

●ママはた（ママの働き方応援隊）との共催事業にたくさんの方が来ている。自分たちで PR 活動とかしっかりやっているのだから、そういった実績あるところにどうやって集客しているか聞いてみたら手っ取り早いのでは。蛍池の「公園で青空 Time」が 4 人しか来ていないのはなぜか。

■その日、阪急電車が止まり、電車で来れない人がいたりしたことなどの影響で、4 人しか集まらなかった。

●理由を書いてあれば分かり易い。それと多くの体験講習会があるが、広報誌はよく見ているのだが目に留まらなかったのだから、もっと方法を考えたらどうか。それから千里の親子ふれあい広場、毎回定員オーバーしても良いくらいなのだが。私達の子育てサロンでも自治会掲示板くらいにしか出していないがいつも定員オーバーしている。利便性がある内容もいいのでもったいない。コラボでの 3 か月検診時に広報しているのか。

■直接はしていないが、てくてくマップという千里活性化の情報誌に掲載してもらっている。

●可愛いイラストで目を引くようなこともしたらどうか。参加が多いところを参考にしてみてもどうか。それから書籍の販売だが、今時アマゾンなどで簡単に購入できるので、参考文献として一覧表を挙げるだけで良いのでは。

●夏休みということで良い行事をしている。保護者との参加については、平日は働いている保護者も多いので、内容にもよるが子どもだけのイベントもやってほしい。去年も言ったと思うが、子ども教室ともタイアップして募集したらどうか。選挙体験などは学校でもやってほしい。私も知らなかったので次年度子どもを連れていきたい。

■夏休みに合わせて小学生対象の事業を多数やっているが、前半は参加が多いが後半忙しいのか参加者が少ないので、出来るだけ前半に持ってきている。近隣小学校にもチラシ配架しているのだが、校区外の学校にも配っているので、保護者同伴としている。一緒に連れて来ていただけるようならぜひお願いしたい。

◇庄内の7ページ、講師が「アメリカ人のシャーリー」とあるが、こんな肩書なのか。芸名なのか。

■公民学連携事業だが、国際交流センターの人で、色々な国の人にやってもらっている。今回たまたまアメリカ人だった。芸名ではない。

<事務局より資料10の説明>

◇今年度はどちらの公民館まつりも非常に多くの人々が来られたという事で、素晴らしいことだと思う。

(3) 令和7年度公民分館講座等の実施報告について

<事務局より資料11、資料12の説明>

●分館講座の表には講師謝礼金が載っていないのは何故か。上限は1万円か。

■そうである。

■謝礼金を載せていないことに特に意図はない。単に載せていなかっただけである。次回からは掲載するようにする。

●講師名が載っていて謝礼金額も載っていることは公表する内容として適当なのか。

◇審議会資料として審議に必要なものであるということで問題ないのでは。

■公職であれば謝礼金辞退になるので支払っているのは民間の方等についてである。基準についても一定決まっており、問題ないと判断する。

●参加費に上限はないのか。2,500 円とかもあるが結構高額だが。

■講師については謝礼金が別に支払われるので、参加費は純粋に材料費と認識している。作る作品等によっては材料費が高くなることもあると思われる。

◇分館講座で、延べ参加者数が空欄の講座があるが、定員が参加者数なのか。

■定員は定員で、参加者数とは別である。延べ参加者数が空欄の講座は、資料作成時点では終了していない講座である。

●公民分館の体育祭や文化祭は秋が多いが、雨で流れたりすると時期が重なったりして、運営する側は大変だと思うが。分館としてはどうか。

●うちでは体育祭は 11 月、文化祭は今年から 6 月と分けた。

●春の開催は人も変わったばかりで難しいとの話もあるが、秋に集中しないように公民館側から指導できないか。

●分館によって分けているところもある。うちも 6 月にしたが 6 月でも暑いのもっと早くしようかと考えている。地域によってもそれぞれ特色があり、分館の行事については、時期も含め地域住民で考えることで公民館から言われることではない。豊中は 4 つのブロックに分かれているが、各ブロックに協議会があって、そこで体育祭や文化祭の時期など情報交換している。

(4) 豊中市教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書(令和 6 年度実施分) について

<事務局より資料 13 の説明>

◇評価が+C になっているのは、参加人数があまり増えていないことのみが理由か。

■昨年度も同じだったが、数値以外で、文章でも評価を記入する項目がある。そちらについては他の市長部局のこども施策との協働で取り組んできたのでそれも書いているのだが、

エビデンスが必要ではないかとのことで数値としては出てこないため評価が低くなっていた。

●この評価は誰がしているのか。自分で企画して自分で評価しているのか。

■評価については、教育委員会の各部局から指標を出させていただいて、それに対して評価委員会という組織があり、その委員に評価されている。要するに、自己評価に対してそれが妥当なものであるのか評価委員会で評価を受けるという事である。

●他部局と連携している子育て事業とは例えばどんなものか。

■ショコラやコラボなど、教育施設である公民館とその他の施設が複合しており、地域連携課の立場としても子育て施設との講座を連携しており、その部分が教育委員会としての評価がされていなかったというところがある。具体的にはショコラの子育て支援センターや保健センターと共催している事業がある。

(5) その他

<事務局より、次回の審議会は令和8年3月18日(水)午後7時から開催であることの報告あり>

●この公民館講座の事業評価は一般市民に公開、提供しても良いか。このような講座をしたらこれだけ人が集まるとか、これを見たらよく分かるので、地域の人と共有したいのだが。

■使ってもらって構わない。

●公民分館の文化祭を視察したのだが、当日雨だったが、分館でもたくさんの方が来ているところとそうでもないところがあった。地域の施設や団体を巻き込んでいる分館は雨でも多くの方が集まっているようであった。そういったところの分館の声を聴くと、自治会も組織率が低下しているし、活動していく中で、人を巻き込んでいかねばならないとみんなで話し合っているという話を聞いて感動した。教育委員会としてもそういったリーダーシップを取っていく前向きな活動の活性化に努めていただきたいと思います。

以上